

第3・4学年 総合的な学習の時間「はばたき」 学習指導案

平成15年10月15日(水)5校時

3年 男子2名 女子3名

4年 男子2名 女子1名 計8名

指導者 諏訪賢志

1 単元名 「見つけよう岸良 棒踊り」 (本時2 / 15)

2 単元の目標

- (1) 郷土に伝わる伝統芸能を調べたり棒踊りを体験したりする活動をしながらか、その歴史や先人の思いを知り、郷土に対する思いを深め、積極的な学習ができる。【興味・関心、意欲・態度】
- (2) 棒踊りやその他の郷土に伝わる伝統芸能(文化)について調べ、郷土の文化や歴史、それらにかかわる人々の思いが分かる。【知識・理解】
- (3) 棒踊りや郷土の伝統芸能について自分なりのテーマを設定し、調べたことや考えたことを分かりやすく発表することができる。また、棒踊りを習得して発表することができる。【表現・技能】
- (4) 郷土の伝統芸能を継承する学習を通して、地域の方々の思いや願いについて考え、郷土を愛し、誇りを持って生活していこうとする気持ち、伝統芸能を守り受け継いでいこうとする態度を身に付けることができる。【考え方・学び方】

3 単元について

(棒踊りの由来と現在)

岸良棒踊りは、本校区に伝わる伝統芸能の一つである。6人を一組とし、棒と小太刀を用いた「棒踊り」と、小太刀と鎌を用いた「鎌踊り」から構成されている。棒踊りの起源は、江戸時代に、武器となる刀や鉄具を接收された農民が、武芸の鍛錬をするために、役人に疑われないようにと身近にあった道具(棒や鎌)を用い、踊りに真似て始められたと言われている。もともと岸良には2種類の棒踊りがあったが、近年、西方のものと東方のものが融合し、一つの棒踊りとして継承されているということである。

棒踊りの継承に関しては、地域住民の有志が、岸良棒踊り保存会(会長 榮倉忍氏)を結成し、棒踊りの存続・継承のための活動を行っている。

(岸良小学校と棒踊り)

本校で棒踊りを取り組むようになって約15年が経過した。棒踊りを存続させ、継承していきたいという岸良棒踊り保存会の意向で、小学校高学年の男子と中学校の男子が運動会やその他の行事の中で発表するという形で練習・伝承してきた。しかし、ここ数年は児童・生徒の減少もあって、昨年度からは高学年女子と中学年も参加するようになった。発表の場は、運動会そして5月に行われた交通事故「0」30周年記念祭があった。また、平成13年度からは踊り用の衣装として、浴衣を購入し、活動に取り組んでいる。

(単元の価値)

これまでに児童は、社会科の学習や理科の学習を通して、自分たちの学校の周りを中心にした身近な地域の環境について学習し、理解してきている。また、実際に自分の目で確かめたり、インタビューを通して分かったことを絵地図に表すなどして、自分たちの住んでいる地域の環境や地理的な特徴をとらえることができるようになってきている。

本学級の子どもたちは、3年生男子2名、4年生3名がすでに棒踊りを実際に踊って発表しているが、3年生の女子3名は、まだ踊りに参加したことはない。しかし、踊りに対しての関心は高い。また、全体的に言えることだが、棒踊りの持つ独特のリズムと勇壮な振る舞いに惹かれており、棒踊りそのものに対する興味・関心が高い。

棒踊りは150年の時を越えて現在に継承されてきている。前段で述べたような棒踊りの趣旨とは違ってきているが、地域に根差す伝統芸能としてなんとか継承していきたいという地域の方々の思いは強い。また、棒踊りを通して、伝統を受け継いでゆくことのよさや郷土に対する愛情、誇りを感じることもできる。

そこで、本単元では、地域に昔から伝わる伝統芸能について、自分なりのテーマを設定し、これまでに身につけている調べ方を使って追究する活動や、実際に棒踊りを踊る活動を通して、自分たちの住んでいる郷土のよさに気づくとともに、伝統芸能を支えている方々や、地域の方々が郷土の伝統を大切に思う気持ちに触れながら、郷土に対する理解をさらに深め、自分たちにできることをしていこうとする気持ちや実践する力を高めることをねらいとしている。あわせて、地域の保存会の方や高学年の児童から棒踊りを教えてもらい、棒踊りを習得することもねらいとしている。

このねらいを達成するために、導入段階において共通の体験的活動を工夫し取り入れ、課題に対する意識を高めたい。また、可能な限り地域の人材を活用し、地域の方々の棒踊りやその他の伝統芸能に対する思いに気付かせたり、教えてもらったりして、地域の方や保存会の方々の思いを大切にし、自ら継承していこうとする意識を持たせたい。ほかにも調べたことや学んだことを発表の場を設定し、学習として取り組んだ成果を認められるようにし、子どもたちが自信を持てるようにしていきたい。

「はばたき」の時間では、生き物の学習や地域の人々との交流を通じた学習も同時に行っており、これらの学習を通して、郷土に対する理解や愛情を深め自信と誇りを持ち生活していこうとする態度を養えるようにしていきたい。また、こういった郷土学習を通して身近な地域を総合的にとらえ、自分たちの生活とのかかわりを考えられるようにし、地域の活性化に自分から積極的に働きかけていけるような子どもを育てていきたいと考える。

考えられる岸良のよさ

- ・ 地域に受け継がれている伝統芸能・行事
- ・ 地域に対する愛情
- ・ 伝統芸能や行事を受け継ごうとする気持ち
- ・ 地域全体で子どもを育てよう(見守ろう)とする気持ち
- ・ 伝承・指導してくださる方の存在

4 児童の実態

本単元の学習を進めるにあたって、以下のような児童の実態がある。実態を把握するために調査紙調査法を用いた。(調査実施日：平成15年10月3日，対象全児童)

また，4年生は棒踊りの経験もあるため結果は3・4年生別に表記する。

(1) 棒踊りの学習は楽しみですか？

【3年生】

はい・・・5 どちらでもない・・・0 いいえ・・・0

楽しそうだから。

練習してお母さんたちに見てもらいたいから。

練習になるから。

みんなの踊りを見たり，踊ったりするから。

保育園の子どもたちに見せられるから。

【4年生】

はい・・・3 どちらでもない・・・0 いいえ・・・0

棒踊りのいろいろなことが知りたいから。

棒踊りが好きだから。

なんとなく。

(2) 棒踊りを踊って家族や地域の人に見せたいですか？

【3年生】

はい・・・5 どちらでもない・・・0 いいえ・・・0

【4年生】

はい・・・1 どちらでもない・・・1 いいえ・・・1

(3) 棒踊りのほかに岸良に古くから伝わる行事があります。どんな行事を知っていますか？

【3年生】

知っている・・・2 夏祭り(1), テコテンドン(1), ナゴシドン(2) 花祭りパレード(1)

知らない・・・3

【4年生】

知っている・・・3 テコテンドン(3), ナゴシドン(2), 甫与志岳登山(1)

知らない・・・0

(4) 棒踊りについてどんなことを調べてみたいですか？

【3年生】

どれくらい昔から行われているのか。

いつから始まったのか。

どんなことを調べたらいいのか分からない

歌はどうやって作られたのか。

古くから伝わっているということは、何年前ぐらいからか。

【4年生】

なぜ、踊るようになったのか。

何で棒踊りを始めたのか。

無回答

(5) 棒踊りは江戸時代(150年以上も前)から伝わる古くからあるものです。どんな気持ちで受け継いでいきたいですか。

【3年生】

ずっと続いていけばいいな。

格好良いところを見せたい。

楽しい気持ちで。

ずっと踊りがなくならないように。

ずっと前から受け継いでいるので、昔の人のために受け継ぐ。

考 察

調査の回答からは、子どもたちの棒踊りに対する期待感が分かる。特に3年生に関しては、男子が先の運動会で初めて披露することができ、うれしい気持ちが強いようである。一方の女子は、ようやく踊れるチャンスがやってきたということで男子や4年生とは違った喜びを持っている。4年生は昨年度も学習しているが、まだまだ自分のものになってはいないという自覚があるのか、関心は高い。その動機の一つとして、棒踊りに対して「かっこいい」というイメージが強いようである。これは追究活動を通して、棒踊りの由来を知ればさらに時代の背景が分かるのと同時に、さらになるほど納得することだろう。また、古くから伝わる棒踊りの継承に自分たちが関わることにできることに素直な喜びを示し、習得した踊りを地域や家族にもぜひ見てらいたい、という子どもらしい感情も表されている。なるべくたくさんの方々を招いて発表の場を整え、見守る地域の方々の思いを感じさせるとともに、自分たちが棒踊りを継承・発展させていくのだという強い意識を持たせたい。

追究活動の視点としては、まだまだあいまいなようにも見られる。そこで、ウェビング法を用いて、「棒踊り」というキーワードから発想に広がりを持たせられるようにしていきたい。「踊る」という行為そのものに目が奪われがちになることが予想されることから、導入段階の働きかけで、追究活動への意欲も持たせるようにしていきたい。

また、棒踊りを継承していくことに対する意識が、子どもなりの言葉で表されているようである。地域の方や保存会の方の思いや願いに触れさせる機会をもって、自分たちのしようとしていることをそれらの方々がどういった思いで見ているのかもしっかりと味あわせていきたい。

5 単元の全体指導計画（全15時間）

過程	主な学習活動	子どもの思考や意識	支援・評価（主なもの）
ふれる	1 オリエンテーションを行う。 (1) 学習の題材にふれる。 ・地元の棒踊りのようすを見る。 ・棒踊り保存会会長の話を聞く。(ビデオ) ・地域の方の話を聞く。(長寿会) 《気づいたことや考えを発表する。》 ・他町の棒踊りのビデオを見る。 (2) 学習の内容・目的・方法をつかむ。 (3) 追求活動の課題をつかむ。 ぼうおどりのひみつをみんなに教えよう。	前はこんなようすだったんだ。 何か違うよ。 僕達と似たような踊りだね。 僕たちも受け継いでいきたいね。 みんな大切にしてるんだね。 ぼくたちも早く踊ってみたいな。 ようし、がんばるぞ。	岸良の棒踊り、他町の棒踊りのビデオを用意する。 保存会の方に話をしてもらい、ビデオに収める。 地域の方(長寿会)に来ていただく。 ビデオを見たり話を聞いたりして自分なりの感想が言えたか。 学習の内容がわかり、意欲を持てたか。
つかむ (本時)	2 追究のテーマを決める。 ぼうおどりについて調べるテーマをきめよう。	どんなことを調べていこうかな。 こんな事を調べてもおもしろそうだな。 について調べていこう。	あらかじめある程度の調べたい事を考えさせおく。 ウェビング法を用いて考えに広がりを持たせる。 自分が追究していくテーマを決めることができたか。
見通す	3 学習計画を立てる。学習計画表の作成 ・内容 ・日程 ・方法の確認をさせる。	こんな学習をしていくんだな。 がんばって調べていこう。	学習計画表を用意し、書き込ませる。 手引きを活用する。 学習計画が立てられたか。
調べる	4 追究活動を進める。【3時間】 5 5・6年生と一緒に棒踊りの練習をする。【4時間】	むずかしいな。でもがんばって覚えよう。 資料のどこの部分を使えばいいかな。 先生に聞いてみよう。 帰ったら家の人に聞いてみよう。	保存会の方に指導を受けるための連絡・調整をしておく。 練習の様子はビデオに収め、振り返りの場で活用する。 資料集を作成し、追究活動で活用できるようにする。 棒踊り習得のために一生懸命練習できたか。 資料を活用して調べたいことが分かったか。
まとめる	6 調べたことをまとめる。 7 発表の練習をする。 8 棒踊りについて調べたことを発表する。 9 棒踊りを披露する。	調べたことや練習してきたことを精いっぱい発表しよう。 どんな方法で発表しようか。 分かってもらえるように工夫しよう。 練習をがんばろう。	手引きを活用して、どうやったら相手によく伝わる発表になるか、考えさせる。 発表用のまとめはきちんとさせ、発表に備えさせる。 調べたことをまとめ、聞く人に分かりやすく伝えることができたか。 堂々と棒踊りを披露することができたか。
いかす	10 お礼の手紙を書く。 11 この学習で得たことを今後どう生かすか話し合う。	お礼の気持ちで手紙を書こう。 また、いろいろな場所で発表したいね。	学習をきちんと振り返らせ、自己評価をさせる。 気持ちを込めてお礼の手紙をかけたか。 今後の生かし方を考えられたか。

6 指導にあたって

【ふれる】段階では、学習意欲を高める、学習の目的が分かる、学習の内容が分かる、学習の方法が分かる、地域の方々の思いが伝わる、という5つの視点から体験的な活動を設定していきたい。学級児童8名のうち5名しか棒踊りを踊ったことがない、という実態から全員で踊ってみることができないため、間接的な体験をさせることとした。その方法としては、昔(14年前のおどり)の様子をビデオで視聴し、棒踊りについての学習をしていくことへの焦点化を図る。次いで保存会の方や地域の方の声を聞き、郷土に対する思い、地域に伝わる伝統芸能に対する思いや願いをつかませ、学習の方向性をより明確にしていく。最後に他町の棒踊りのビデオを見せ、考えに広がりを持たせられるようにする。

【つかむ】段階では、前時の学習を参考にして、踊りの習得活動とならぶ柱である追究活動のためのテーマ設定をさせる。ウェビング法を用いて発想に広がりを持たせて、関連することから、発展することからを想起させながらテーマや調べる内容を決められるようにしていきたい。

【見通す】段階では、具体的な学習計画を立てさせる。日程的にはっきりしているものについては伝え、練習や追究活動にどれくらい時間を充てたらよいのか考えさせるようにしたい。その際、学習の手引きを活用して自分たちがどんな学習(内容)をどんな目的で、どんな方法で進めていこうとしているのか明らかにさせたい。また、追究活動を進めていく際に、これまでの経験が浅いことと多様な資料が十分にそろっていないことから、こちらの方で資料を作成しておき、そちらも活用していけるように働きかけていきたい。

【調べる】段階では、追究活動と踊りの練習が中心になる。追究活動では何を調べたらよいか分からない子どもはいないか、または、その反対で広げすぎて調べたいことが焦点化されていないか子どもはいないか確かめながら追究活動を進められるようにしていきたい。踊りの練習に関しては、5・6年の担任と連携を図って高学年の指導を受けながら練習を進められるようにしていきたい。また放課後の時間等を使って練習をし、自主的な活動が進められるようにしていきたい。また、保存会の方々の指導を受ける時間を設けるなどして、確かな練習ができるような環境を整えておくようにしたい。

【まとめる】段階では、調べたことをしっかりと整理させて発表できるようにしていきたい。その際、聞いている人に分かりやすく伝えるということを視点として、まとめ発表できるようにしていきたい。また、発表の方法やまとめ方については手引きを用いた指導を行っていきたい。発表の場には、保護者だけでなく、地域の方、高齢者保存会の方々、保育園にも働きかけて見に来ていただけるようにしたい。踊りの発表に際しては、郷土の伝統芸能を受け継ぐことや地域の方々の思いや願いに触れられるように帰り際にアンケートに答えていただき、子どもたちへの賞賛に活用したい。

【いかす】段階では、学習を振り返り、がんばったことやよくできたところ、または反省すべき点についての自己評価をさせ、今後の他の単元や他教科・領域の学習にも生かせるようにしたい。また、修得した棒踊りを生かせる場についても話し合わせたい。最後にお世話になった方にお礼の手紙を書かせ、学習のまとめとしたい。

7 本時

(1) 目標

発表を積極的に行いながら、追究活動のテーマを決めることができる。

(2) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の支援
導入	1 前時の振り返りをする。 2 学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> ぼうおどりのひみつ をみんなに教えよう。 </div> 3 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 棒踊りについて調べ るテーマを決めよう。 </div>	5	前時の学習を振り返らせ、棒踊りの簡単な歴史やかかわってきた方々の思いを振り返らせる。 振り返りの際は、前時のワークシートを活用する。 小黒板に書いた学習課題を掲示する。 本時のめあてをつかませるために、掲示する。
展開	4 追究活動のテーマを決める話し合いをする。 (1) 自分が調べたいことを書く。 (2) 具体的に調べる内容を書く。 5 「棒踊り」をキーワードにして関連することがらを出し合う。 6 先生と相談をしながら追究のテーマと具体的な調べる内容を決める。	30	まず、自分の調べたいことをワークシートに書かせる。 ウェビング法を用いて考えに広がりを持たせる。 大きな柱(衣装・道具・歌・歴史・その他の伝統芸能行事)についてはあらかじめ板書する。 関連することがらを板書をもとに絞らせ、何を調べるのか、ということを明らかにさせる。 板書内容は、記録しておき追究活動の発展に役立てる。
終末	7 決まったことを発表する。 8 次時以降学習の流れをつかむ	10	ノートに決まったテーマを書かせて、発表させる。 次時以降の学習の流れを説明し、本時のまとめとする。

(3) 評価(内容と方法)

発表を積極的に行いながら、追究活動のテーマを決めることができたか。

(発表の様子や内容)

(追究活動のテーマは決まったか、ワークシート)

単元の構成

見つけよう！ 岸良 『棒踊り』

地域の方の願いにふれる（課題との出会い）
保存会の方

課題を発見する力
地域の方



ぼうおどりは、
かっこいいな。
もっとぼうおど
りについてくわ
しくなろう！

課題 『ぼうおどりのひみつをみんなに教えよう』

個人テーマを作る

テーマを作る力

衣装や道具	歌や踊り	他の伝統芸能
いしょうや道具には どんな意味があるのだ ろう？何であんなに派 手なのだろう？	棒踊り時に歌われ ている歌にはどんな 意味があるのだろ う？なんであんな踊 りをするのだろう？	岸良の伝統芸能は ほかにどんなもの があるのだろうか？ほか のまちにも棒踊りは あるのだろうか？

学習計画を立てる

学習を見通す力、学習の計画を立てる力

学習計画表の作成（日程・内容・方法）

よし、調べてみよ
う。どんなひみつ
がわかるかな？

追究活動を進める

資料から必要なことを読み取る力（読み）^①聞き取る力（インタビ
ュー）要点をまとめる力（メモ・発表原稿）

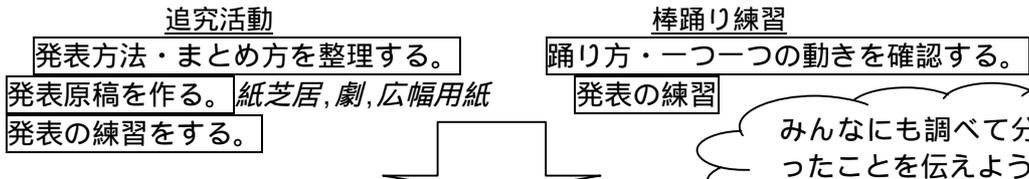
追究活動	保存会や地域の方、家族にインタビューを行う。
棒踊りの練習	高学年や保存会の方の指導を受けながら練習をする。

ひみつが分
かってきた
ぞ！

調べたことをまとめて発表する。

整理し、まとめ、発表する力

（総合発表会・・・11月25日）



総合発表会

みんなにも調べて分か
ったことを伝えよう！

学習のまとめ

地域のよさを考える力、地域の方の思いを感じる力

- ・ 自分たちの学習を振り返り、(発表会の感想を読む)
保存会や地域の方の気持ちを考える。
- ・ お礼の手紙を書き、学習のまとめとする。

みんな棒踊りを大切
にしているんだね。こ
れからもずっと続け
ていきたいね！